

加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム
令和8年度 第2回ワーキンググループ 議事要旨

日時：令和8年8月31日（月）14時00分～

場所：加茂市役所3階 301・302 会議室

出席者

● ワーキング（WG）メンバー

堀内大祐（加茂商工会議所 まちづくり委員会 委員）

涌井陽（加茂市商店街協同組合（涌井金太郎商店））

萩野正和（株式会社 connel 代表取締役）

松井大輔（新潟大学工学部工学科 准教授）

加藤はと子（全国「道の駅」女性駅長会 会長）

齋藤貴元（第四北越銀行 加茂支店 支店長）

長橋貴之（第四北越銀行 加茂支店 次長）

中林寛（加茂信用金庫 総合企画部 課長）

近藤良（加茂青年会議所 専務理事）

青山准（NTT 東日本 新潟支店 地域基盤ビジネス課長）

● オブザーバー

岩淵丈和（URBANIX 株式会社 代表取締役）※オンライン参加

細貝光太郎（株式会社新潟放送 ビジネスプロデュース局エリアプロデュース部）

阿部駿（加茂市観光協会 事務局長）

市川諒（加茂市商工観光課 主事） ※オンライン参加

和田丈裕（加茂市建設課都市計画係 係長）

● 事務局

齋藤祐樹（事務局長：加茂市政策推進課 課長）

近藤真史（事務局次長：加茂市政策推進課 課長補佐）

日山綾夏（事務局員：加茂市政策推進課 主事）

坂内奏太（事務局員：加茂市政策推進課 主事）

議事

0. 配布資料の確認

1. 開会

2. 議題1：取組報告

○まちなかコンシェルジュ・まち歩きガイドについて

【説明者】資料はないが、口頭にて進捗を報告する。8月31日を目途にコンシェルジュの参加店舗数を増やす取組を行っており、これまでの5件に加えて新たに登録を呼びかけた。結果として件数が増加し、新しい登録先も非常に協力的である。今後は、観光協会に加盟している店舗・事業所の皆様に対して募集の情報を広く提供し、集約した情報を参加店舗に投げていく形で取り組む。11月29日のラジオ公開収録イベントの前に情報を取りまとめたいと考えている。

【事務局】今回新しく増えた店舗等は具体的にどこか。

【説明者】「ぱすたみすた」「葵タクシー」「安中米店」「KIDORI」の4件である。

○空き店舗の活用に向けた実証実験について

【説明者】資料3に基づき報告。1ヶ月単位での賃貸借契約等は、オーナーおよび出店者双方にとってコストが大きく小さな一歩が踏み出せない課題がある。Place bookは、地図上にある空きスペースや駐車場の一部、店の軒先等を登録し、1日単位で貸し借りできるプラットフォームである。初期費用や月額はいくらでも、マッチング成功時のみシステム運用手数料をいただく。貸す側はスペース登録と、貸せる日・料金を決めるだけでよく、チャットや決済はシステム内で完結する。出店者の申請を見て断ることも、登録をいつでもやめることも自由である。空き家情報のマッピングや、地域の不動産会社ウェブサイトへのリンク遷移も可能である。また商店街や公共施設に既存設置されているカメラと連携し、人流データを抽出して画面上で通行量やピーク時間帯を可視化する機能も開発中である。

【WGメンバー】カメラの連携について、現在まさに穀町商店街、加茂山、加茂川で人流調査を行う実証実験を計画している。堀内組の子会社を中心となり、建設課の協力と新潟県の補助金をもらって実施予定である。15～16台のカメラ検証を予定しており、イベント時にどれくらいの人を通るかを可視化できるのが理想。データを単に集めるだけでなく、Place book側とうまくシステム連携・可視化できれば非常に相乗効果があると考えているがどうか。

【説明者】イベント時にどれほどの人が通るかを可視化して出店者を募集できるのは非常に理想的である。ぜひ連携させていただき、共同検証を進めたい。

【事務局】10月3日の大通り秋祭りのタイミングでPlace bookを使ったデモ出店を計画しており、あさって9月2日に穀町商店街の皆様と詳細を詰める。それまでに「うちのスペースをデモで表示してもいいよ」という物件があれば、ぜひ事務局にご連絡いただき、情報を提供してほしい。参考資料として添付したJR東日本の7月14日付プレスリリース「HirakeBA（ヒラケバ）」について、萩野氏より解説をいただきたい。

【WGメンバー】JR東日本が駅中心のまちづくりとして公共空間（交通広場等）の活用を目指

し開始したサービスで、新津駅や見附駅などで実証実験が進んでいる。交通広場等の公共空間を JR が一括窓口となってマネジメントする仕組みである。空き地に限らず、使われていない土地をうまく使えばビジネスになると判断したからこそ JR が乗り出してきた。地域にとっては良い選択肢が増えたと言える一方、ある意味で非常に困った事態とも言える。なぜなら、にぎわいから生まれる収益やお客さんとのネットワークが、地域外の会社に入ってしまう、地域に還元されにくくなる懸念があるからである。単に場所を貸すだけでなく、そのやり取りの中で地域が育つ仕組みを、地域主体のエリアプラットフォームでしっかり握っておく必要がある。

【事務局】新潟駅・万代地区周辺エリアプラットフォームでは、この JR の動きをどう捉えているか。

【WG メンバー】新潟駅周辺エリアでは万代口広場や東大通りの活用を巡り、管理・マネジメントはなるべく地域（エリアプラットフォーム）で主体的にやろうと動いている。そのため、JR の参入については「強力な対抗馬が出てきたな」という危機感を持っている人もいる。

【事務局】加茂駅前の噴水のある広場は建設課が管理している。ただし、駅に近い一部の土地は JR 東日本が持っていて、全体としては共同管理のようになっている。

【WG メンバー】JR のサービスを利用することは可能だが、その収益が「誰の財布に入るか」は慎重に議論の余地がある。行政であっても、収益を一般会計に入れてしまうとお金が分からなくなるし、民間企業が持っていけば地域に戻らない。だからこそ「まちづくり会社」を地域で持っておき、まちの財布に収益をプールして、それをまちに還元する意思決定ができる体制を作る方が、お金の出し入れが圧倒的に楽である。

【WG メンバー】ちょうど、この度まちづくり会社を立ち上げた。

○シティプロモーション・情報発信について

【説明者】資料 4 別紙に基づき報告。11 月 29 日に市民体育館でラジオの公開収録を行う。今回は加茂商工会議所のイベント（産業センター）と同日開催とし、11 時～11 時 30 分に産業センターでイケメン四銃士のライブを行ってまず市外から人を呼び込む。その後、13 時からの公開収録までの約 2 時間を「お昼・飲食時間」および「加茂体験時間」として設ける。市民体育館の後方や教室を使い、日本酒などの試飲や靴下の安売り販売、金融セミナーなどの体験ブースを同時展開する。最後に抽選会を行い、来場者に加茂の特産品をお土産として持ち帰ってもらう。

【事務局】集客ターゲットは主に市外を想定し、昨年の約 250 名から、今年はイケメン四銃士を加えて 500 名程度の集客を見込んでいる。集客力への懸念もあったが、熱心なコアファンが相当数いるらしい。また前回、飲食時間を挟んだ方がいいというアドバイスをいただいたため、午前ライブ・昼食・午後公開収録という流れを想定した。日曜日は商店街のお店が閉まっている懸念もあるため、タイムラインが決まり次第、営業協力の依頼をかけていく。

【WG メンバー】告知の計画はどのようになっているか。

【説明者】今回はラジオだけでなく、11 月からテレビ CM も使って 1 ヶ月前から大々的に告知する。イケメン四銃士の SNS や、9 月 23 日の新潟市内でのイベント（200～300 人規模）の現場でも告知チラシを配る。

【事務局】加茂市民向けには広報誌などで周知し、「中向けは加茂市、外向けはBSN」という役割分担で広く深く発信する。

【WG メンバー】産業センターから市民体育館までは歩いて 20 分～25 分程度かかる。500 人が一気に移動するとなると結構な距離なので、手書きのマップでもいいから案内図兼ランチマップがあるといい。どこで何が食べられて、どれくらい歩けば午後の会場に行けるのか、先が見えた方が歩く面倒くさが解消される。そのマップを持って行ったらチケットになるような至れり尽くせりの仕掛けがあると非常に良い。

【WG メンバー】ちょうど商工会議所でも手書きのような温かみのあるマップ作成を進める動きがある。一方で、ほとんどの人は車で来るのではないかな。車を置く駐車場が足りなくなる懸念がある。【加藤】一度産業センターに車を置いた人が、また歩いて車を取りに戻るのを嫌がると思うので、帰りだけでも駅や駐車場へのシャトルバスを出すなどした方がいいのではないかな。

【WG メンバー】車を商工会議所周辺や産業センター側に停めて、イベント中はまちなかを歩いてもらう形であれば、車を置いておくだけなら全く問題ない。

【WG メンバー】イケメン四銃士のメンバーに「俺たちと一緒にここまで歩こうぜ！」と呼びかけてもらって追っかけさせれば、ファンは喜んで歩くのではないかな。「帰りはバスがある」と分かっているれば、行きは喜んで歩いて移動してくれると思う。

【説明者】イベントでお酒の試飲なども行う計画があるので、基本的には電車など公共交通機関で来てもらうよう呼びかけたい。ただ多くは車になると思うので、割合の想定などを整理したい。

【事務局】昨年度のイベント終了後にヒアリングした感触では、JR（電車）の利用比率が約半分以上と非常に高かった。埼玉など県外から朝早くから来られて並ぶようなファンも多い。そういう熱心な方々向けに、「公共交通機関で来たら限定ステッカーがもらえる」といったインセンティブを作るのも手である。たかがシール、されど限定シールなので、ファンにとっては大きな効果がある。

【事務局】昨年の来場者を見ると、お昼ご飯をまちなかで食べるだけでなく、千代田ベーカリーや市内の惣菜店などでテイクアウトして、早く会場に行って良い席を取り、食べながら開演を待つというニーズが非常に高かった。マップを整備する際、テイクアウト可能な情報も載せられるとニーズに非常に応えられる。また、会場にキッチンカーをお願いするのも有効な手立てである。

○クリエイター塾について

【事務局】資料 4 に基づき報告。今年度は 10 名の受講生（昨年度は 28 名）で 8 月 22 日より開始した。昨年度に比べて参加者数は減ったが、市民が 8 名、加茂市内に勤務している方が 1 名と、加茂市に直接関係している人が 9 割（9 名）を占めるようになった。昨年度は市民比率が 6 割程度だったが、今回は内部向けの広報を強めた結果、地元関係者の比率が非常に上がった。初参加が 8 名、リピーターが 2 名である。また、昨年度は人数が多かった分、グループワークで「人数が多いから私はやらなくていいかな」と消極的になる反省もあったが、今年は 10 名なので、全員の顔と名前がすぐに一致する。8 月 22 日の初回のワークショップも去年の初回

以上に全員が積極的に発言し、大変盛り上がった。8月27日のオンライン授業後には、自主的に加茂の受講生だけで「アフタートーク」を開き、7人が参加して活発に疑問点を解決し合っていた。受講だけで終わらせず、今後の加茂市のシティブロモーションやエリアプラットフォームの情報発信を担っていただける仕組みを検討していきたい。

○リノベーションまちづくりについて

【事務局】資料5に基づき報告。7月9日に「KAMO NEXT TALK vol.2」を開催した。登壇者は五十嵐氏、阿部氏、御手洗氏、および宮腰氏の4名。会場が非常に熱気にあふれ、有料イベント（定員25名）のところ満員・立ち見が発生するほど多くの交流が生まれた。次回「vol.3」は10月下旬に開催予定で、カクチョー不動産の長谷川氏、KIDORIの難波氏、カフェシュガーの横尾氏と調整しており、基本的には内諾をいただいている。会場はもう少し広いところを探しているが、もう一度インフォメーションセンターでの開催になってしまうかもしれない。また、カクチョー不動産・長谷川工務店様が手がけた「メゾンワタナベ」のリノベーションがほぼ完了した。客室7室の宿泊スペース（民泊）、貸しスペース、貸店舗が一体となった施設である。このようなリノベーション物件や、使えるような空き物件の情報があれば事務局まで提供してほしい。Place bookなどと連携してうまく活用を考えたい。さらに、近隣自治体の勉強として、9月10日に柏崎市で行われる「リノベーションスクール事前セミナー（講師：西村浩氏）」へ私と商工観光課の市川で情報収集に行く。車を出すので、一緒に行きたい方は送迎する。また、新潟市が取り組んでいるリノベーションまちづくりの考え方を地域全体に広げるイベントが9月にある。加茂市も、まちなかエリア全体が「市全体の魅力が集まるショーケース」になるような未来ビジョンを描いており、勉強のために参加しようと考えている。

3. 議題2：その他関連する取組について

【WGメンバー】10月3日の大通り秋祭りに、加茂中学校の生徒が参加する。穀町、仲町、本町に分かれて、それぞれのお手伝いをやる方向で中学生が動いている。また、中学校が統合で廃校になるため、そのタイミングに合わせて加茂中学校の校舎を開放するイベントもできないかと考えている。それからもう一点、一般社団法人「あおみの庄」というまちづくり会社を7月末に立ち上げた。今のところ具体的なプランが固まっているわけではないが、まずはプレイヤーのやりたいことを応援し、背中を押す受け皿としての「箱」を作りたかった。皆様から「一緒にこれをやろう」という提案があれば、ぜひお願いしたい。

【事務局】事務局からもお願いだが、URBANIXの実証実験に関連して、物件でなくてもスペース（敷地・広場等）でも構わないので、貸し出せる場所があればぜひ提供してほしい。例えば、観光協会の前のスペースなどはどうか。

【WGメンバー】ぜひ協力したい。市の土地になるので、商工観光課と協議した上で、貸し出し可能か検討したい。

【WGメンバー】第四北越銀行加茂支店の裏手の駐車場なども、お使いいただけるようであれば、お祭りなどの際にスペースとして提供したい。

【WGメンバー】観光協会の取り組みとして、今年も加茂南小学校から鯉のぼりに関する授業

（歴史的背景などの講話）や、こいのぼりの靴紐体験などの依頼を受けており、9月末に行く方向で調整している。鯉のぼりイベントは、単に見るだけのイベントから、市民や小中学生など多くの人が色々な形で関われるイベントへ発展させていきたい。せっかく加茂を代表するイベントになってきたので、皆様からも「こういう関わり方ができないか」という声かけをいただければ、実現に向けて動きたい。また課題として、鯉のぼりは商店街との連携がまだ足りていない。先ほどの第四北越銀行様の駐車場スペースなどを貸しスペースとして活用できれば、河川敷から上がってきた人がそこで楽しみ、そこから商店街へ流れる回遊性が生まれる。来年4～5月に向けて、商店街への回遊性向上も含めて今後強化していきたい。

【WGメンバー】新潟駅周辺エリアプラットフォーム（4年目）の動きを紹介する。最も大きな動きは、会員企業の20代後半から30代の若手社員が集まる「若手ネットワーク交流会」が昨年でき、WGへ格上げされたこと。あえてルールで縛らず、好きにほったらかして活動してもらったところ、自主的に新潟駅前のモニュメントを推しカラーでライトアップする企画を行い、SNSで非常にバズって人気となった。こういうクラブ活動のような「ゆるい関わり」を若手で作っている。一方で、にぎわいを作るために「新潟駅に降りた人が何がどこにあるか分からない」という課題に対し、駅から朱鷺メッセまでの移動データを分析して「いかにまちなかにお金を落とし、留まってもらうか」を事業者からセミナー等で勉強している。また、会員企業からクルージング意見交換会などの提案があり、プラットフォーム側で全会員に情報を流してマッチングを応援している。新潟駅周辺のエリプラは誰でも無料で入れてセミナーなどもタダで受けられるので良いところをどんどん情報収集して参考にしてほしい。そこで繋がりを作って「加茂でも〇〇やってよ」といった連携に繋げるのも非常に有効である。

4. 事務連絡

5. 閉会